

観光地点検

奈良県立大学地域創造学部講師
岡本 健



コスプレイベントを田舎で開催 地域おこし隊のアイデア生かす

今、様々な地域でコスプレイベントが開催されている。コスプレとは、アニメやマンガ、ゲームのキャラクターの扮装をして楽しむ遊びだ。一般的な言葉で言うと「仮装」に近い。

コスプレイベントには様々な形があるが、あるエリアを限定して、その中でコスプレを許可するものが多い。都市部のコスプレイベントでは、どこかの会館を借り切った屋内型も多く、かなり限定的だった。ところが、近年は地域をコスプレイベントに開放する事例が増えている。アニメ『らき☆すた』の聖地として有名な埼玉県の久喜市鷺宮では、地元の祭り「土師祭（はじさい）」で、北海道の洞爺湖では「TOYAKO マンガ・アニメフェスタ」と銘打ち、洞爺湖温泉街で行っている。

今回は、青森県下北郡佐井村で行われたコスプレイベントに焦点を当て、どのような課題と可能性があるのかを論じたい。

佐井村に若者を呼び込む

佐井村は、人口2300人ほど。代表的な観光資源は仏ヶ浦と呼

ばれる景勝地だ。近年、観光に力を入れ始め、2012年には「“Sai” ツーリズム構築推進プロジェクト（愛称：あおい環プロジェクト）」がスタートした。

毎年9月に催されるやのねもりはちまんぐうれしたいよい箭根森八幡宮例大祭には、本年から観光客向けの祭りの体験プラン「村民なりきり参加プラン」が実施される。同村には、前述の仏ヶ浦や、海産物目当ての客が訪れるが、アクセスは不便だ。東北新幹線の新青森駅、八戸駅、あるいは青森空港からそれぞれ自動車で約4時間、JR在来線の下北駅からでも自動車で約1時間半かかる。



地域の景観を背景にしたコスプレイヤー

この村に13年から地域おこし協力隊として赴任した村木伊織氏（26）は、こう指摘する。「今でも仏ヶ浦や海産物目当てにお客さんは来ている。観光資源になり得るものもたくさんある。今後は、もっと旅行者に地域に滞在してもらえるような仕

組みや、若い層を呼び込む仕掛けが必要だと感じた」。村木氏は、こうして佐井村でのコスプレイベント実施を思いつく。

交流から滞在型観光へ

村木氏は、大学生時代に鷺宮町商工会（当時）でインターシップを体験していた。鷺宮町（同）では、アニメファンに対する様々な企画を実施していたが、そこで村木氏は、来てくださるお客さんと地域住民との理想的な関係を目にする。

観光の図式でよく言われるのがホストとゲストの関係性だ。ホスト（地域住民）がゲスト（旅行者）をもてなす構図である。一見平凡な図式だが、実はホストとゲストの関係があまりに固定化されると、両者に交流が生まれにくくなる場合がある。

鷺宮町では、ホストとゲストの垣根が低く、旅行者が旅行者をもてなしたり、地域住民が旅行者のパフォーマンスを見て楽しんでいる。村木氏は、佐井村でも旅行者と地域住民の距離を縮め、村を観光目的地として訪れて、ゆっくり滞在してもらい、地域住民と交流してほしいと考えたのだ。

コスプレを行う人々をコスプ

レイヤー（以下、レイヤー）という。コスプレには様々な楽しみ方があるが、多くの場合レイヤーはコスプレイベントで写真撮影を行う。珍しい景色や美しい景色、コンテンツの世界観にあった景色で撮影できることが、レイヤーにとってイベントに参加するメリットなのだ。

佐井村には、仏ヶ浦という景勝地があり、村内にはまだ見出されていない美しい景色もある。村木氏はこれを活用しようと考えた。レイヤーには若年層が多いため、若者も呼び込める。

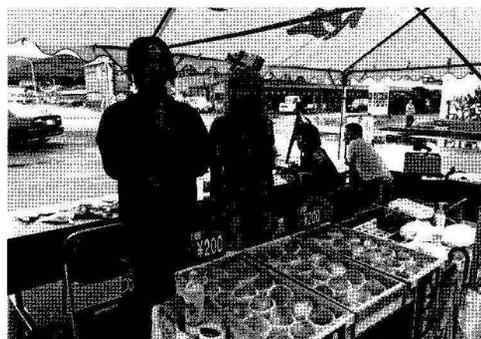
協力隊のアイデア力を重視

村木氏が地域の人々にこのアイデアを持って行くと「佐井村ではこうしたイベントを実施したことは無いが、面白そうだからやってみたらいい」と背中を押してもらえたという。地域おこし協力隊を招聘している自治体は多いが、うまく生かしていない例もあると聞く。せっかく外から人を呼ぶのだから、元々地域にある価値観に押さえ込んでしまってはもったいない。佐井村は地域おこし協力隊と良い関係を築けていると言えよう。

佐井村のイベントは「Saiアニメサマーフェスティバル」と名づけられ、14年8月15日に開催された。コスプレをして村内で写真撮影してもらう他、アニメソングのカラオケ大会や痛車の展示なども催された。会場は津軽海峡文化館アルサスとい

う施設だ。飲食店などが入っており、村民も多く利用する施設である。当日は天候が悪かったがレイヤーが40名来場。カラオケ大会には12名が参加、痛車は10台集まった。多くが青森県内の参加者であったが、東京

から来た参加者もいた。カラオケ大会を見に来た人は約100人、アニメファンだけでなく、村民も数多く訪れた。イベント終了後に、佐井村の景色を生かしたコスプレ写真をレイヤーに



周辺自治体からも地域おこし協力隊が駆けつけた

対して募集をしている。すでに写真が送られてきており、外部の視点から新たな景観資源が掘り起こされ始めている。景観を資源に、これまでとは異なる層の新規顧客を開拓できた。G

今後の課題

佐井村では、すでに観光事業である「あおい環プロジェクト」が進行中だ。ただ、プロジェクトは続けていくにつれてメンバーが固定化することが多い。観光振興を行う場合、様々な興味、関心の人々に、地域の多彩な切り口を見せようと思った場合、実施主体が一つに固まってしまうのはリスクにもなる。

今回は、既存とは異なる層の旅客を呼びこむことに成功した。さらに実施側としても、若い世代でこれまであまり地域おこしに関わっていなかった人々を巻き込むことに成功している。実際、今回のイベントを実施するに当たって、村内の人々はもちろん、村外からもボランティアスタッフが集まっている。

また、特にアニメや漫画作

品の舞台になっていない場所でも、地域の景観をコンテンツ化することは可能で、そうすればアクセスや天候の悪さを乗り越えて人々が訪れることを示した事例といえる。バスツアー客が40人来ることは佐井村でも珍しくはないだろう。ただ、その40人の滞在時間はどの程度だろうか、その40人は佐井村の良さをじっくり堪能してくれる人々だろうか、もう一度佐井村に来てくれる40人だろうか…。

通過型の観光客と、滞在型になり得る旅行者は、今後の展開の可能性がまったく異なる。今回のイベントでレイヤーは来訪したが、今後創意工夫を続けていくことで、地域の人々とのより深い交流を進め、滞在型の観光につなげていくことが重要だ。